

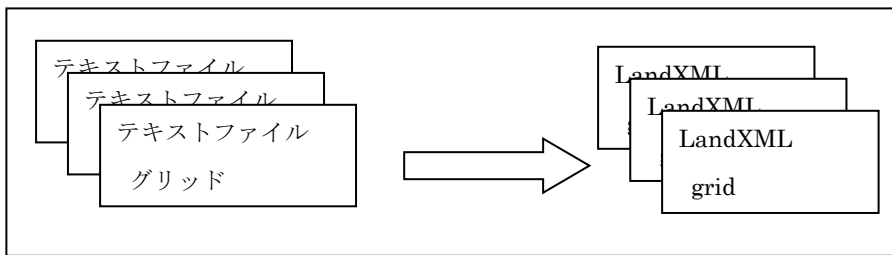
CSV から LandXML (CgPoint)

目次

1. 機能	1
2. ダイアログ	2
3. 確認	4
4. 更新記録	5

1. 機能

ランダムな XY で(グリッドになっていない)記録された標高値の CSV を LandXML ファイル変換します。



	0	10	20	30
1	-71175.500	-75056.500	597.389	↓
2	-71175.500	-75055.500	597.535	↓
3	-71176.500	-75054.500	597.808	↓
4	-71175.500	-75054.500	597.681	↓
5	-71174.500	-75054.500	597.711	↓
6	-71177.500	-75053.500	598.341	↓
7	-71176.500	-75053.500	597.903	↓
8	-71175.500	-75053.500	597.922	↓

入力ファイルの例。1 行に 1 点の XYZ 座標が記録されています。

```
1 <LandXML↓
2   xmlns="http://www.landxml.org/schema/LandXML-1.1"↓
3   xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"↓
4   xsi:schemaLocation="http://www.landxml.org/schema/LandXML-1.1 http://www.landxml.org/schema/LandXML-1.1/LandXML-1.1.xsd"↓
5   version="1.1"↓
6   date="2016-03-31"↓
7   time="15:30:00"↓
8   ↓
9   <Units>↓
10    <Metric areaUnit="squareMeter" linearUnit="meter" volumeUnit="cubicMeter" temperatureUnit="celsius" pressureUnit="HPA"/>↓
11  </Units>↓
12  <CgPoints>↓
13    <CgPoint>-75937.500 -75200.500 382.373</CgPoint>↓
14    <CgPoint>-75936.500 -75202.500 382.399</CgPoint>↓
15    <CgPoint>-75936.500 -75201.500 382.403</CgPoint>↓
16    <CgPoint>-75936.500 -75200.500 382.412</CgPoint>↓
17    <CgPoint>-75935.500 -75203.500 382.426</CgPoint>↓
```

```
1 <LandXML↓
2   xmlns="http://www.landxml.org/schema/LandXML-1.1"↓
3   xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"↓
4   xsi:schemaLocation="http://www.landxml.org/schema/LandXML-1.1"↓
5   version="1.1"↓
6   date="2016-03-31"↓
7   time="15:30:00"↓
8   >↓
9   <Units>↓
10    <Metric areaUnit="squareMeter" linearUnit="meter" v
11  </Units>↓
12  <CgPoints>↓
13    <CgPoint>-75937.500 -75200.500 382.373</CgPoint>↓
14    <CgPoint>-75936.500 -75202.500 382.399</CgPoint>↓
15    <CgPoint>-75936.500 -75201.500 382.403</CgPoint>↓
16    <CgPoint>-75936.500 -75200.500 382.412</CgPoint>↓
17    <CgPoint>-75935.500 -75203.500 382.426</CgPoint>↓
18    <CgPoint>-75935.500 -75202.500 382.405</CgPoint>↓
```

上図は作成した LandXML ファイルの例です。「CgPoint」が記録されています。

変換元の CSV ファイル等に記録されている座標は平面直角座標系でメートル単位とします。

xml の要素「CgPoint」には次の順序で出力します。

- ① 南北 測量 X 数学 Y メートル 小数点以下 3 桁まで
- ② 東西 測量 Y 数学 X メートル 小数点以下 3 桁まで
- ③ 標高値 メートル 小数点以下 3 桁まで

2. ダイアログ

グリッドファイル入力フォルダ

変換元のファイルのフォルダを指定します。点データは、1行にひとつの点が記録されているものとします。

入力ファイルの拡張子

入力フォルダ内の指定された拡張子のファイルを参照します。

入力ファイルの座標値の列

XYZ座標が記録されている列を指定します。

入力ファイルの一行目はヘッダ

入力のCSVファイルなどの1行目がヘッダやコメント行の場合ONにします。ONの場合、2行目から参照します。

LandXMLのスキーマのバージョン

保存するLandXMLのバージョンを指定します。選択されたバージョン番号をxmlファイルに記録します。

日付

xmlに記録する日付を指定します。yyyy-mm-ddの形式で入力してください。半角のハイフン「-」で区切ります。

この形式以外だと、スキーマに照らしあわせるとエラーとなります。

時刻

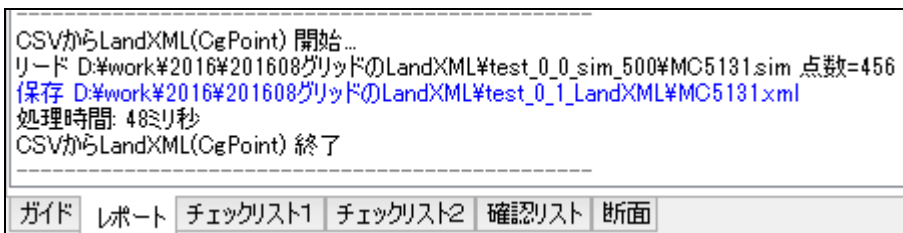
Xmlに記録する時刻を指定します。hh:mm:ss の形式で入力します。半角のコロン「:」で区切ります。
この形式以外だと、スキーマに照らしあわせるとエラーとなります。

「Surface」の「name」

要素「Surface」の属性「name」に記録する文字列を指定します。

LandXML(.xml)ファイル出力(ファイルまたはフォルダを指定)

xml ファイルを保存するフォルダを指定します。作成する XML ファイル名は、元の TIN(.txt)の名前と同じになります。



レポートパネルには、xml に出力した座標「P」の数と、面「F」の数をレポートします。

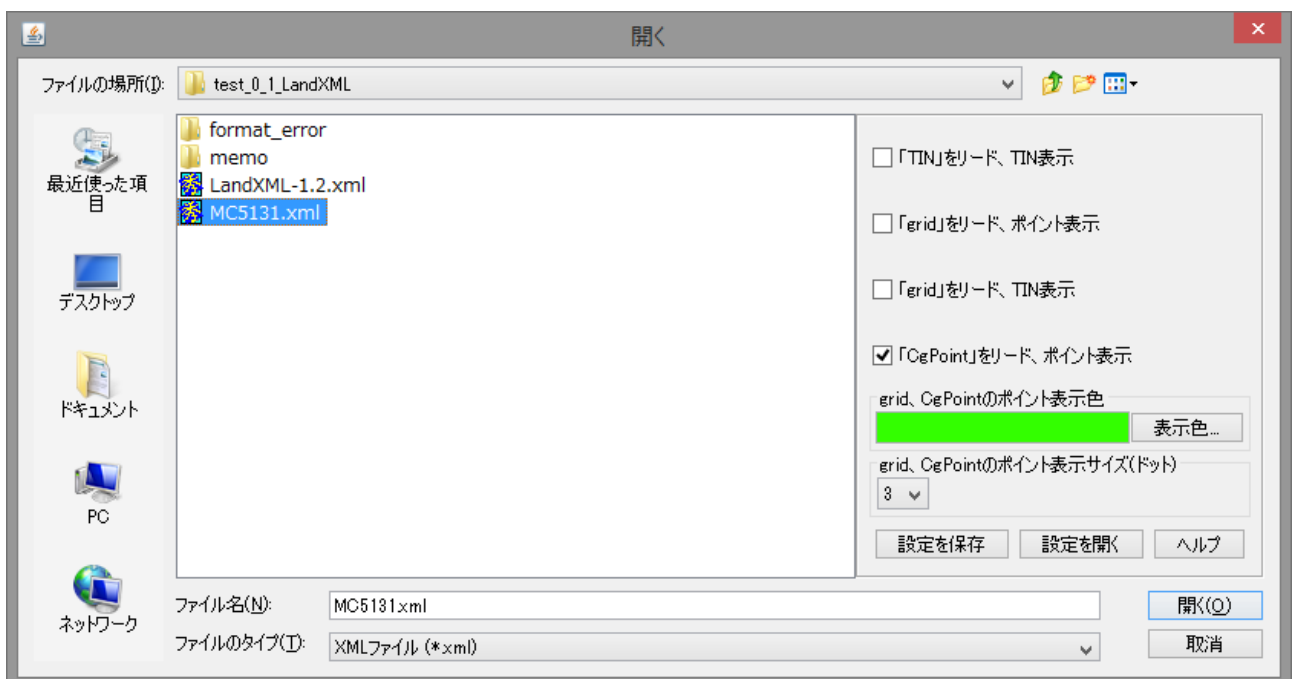
3. 確認

保存した LandXML ファイルは、メニュー

開く LandXML(.xml)

<http://www.geocoach.co.jp/help/LandXmlOpenPart0Panel.pdf>

で開いて 3 次元表示できます。



4. 更新記録

2016/09/20

✓このメニューを作成

2017/11/01

✓説明書を訂正、加筆